



2017.3.1 ▶ 2017.8.31  
第93期 中間報告書



木が育ち、人が集い、未来をつくる

イオン株式会社

証券コード：8267

## トップメッセージ

飛躍的な成長に向けて、  
絶えず革新し続けてまいります。

取締役 代表執行役社長

岡田元也



株主の皆さまにおかれましては、平素よりご高配を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

当社は、「お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する」という基本理念のもと、絶えず革新し続ける企業集団として、「お客さま第一」を貫きながら変革を重ねています。これまで小売業を基点に、金融、ディベロッパー、サービス等事業ポートフォリオの多様化を推進するとともに、中国、アセアン地域を中心に国際化を進め、現在では、連結子会社295社、約2万店舗にまで拡大しました。当第2四半期の連結業績は、イオンリテール株式会社における収益構造改革により、収益性が大幅に改善したほかドラッグ・ファーマシー、総合金融、ディベロッパーの各事業が引き続き好調に推移する等、連結営業収益が4兆1,686億円(対前年同期比101.4%)、営業利益が850億円(同117.5%)、経常利益が855億円(同117.0%)と増収増益となりました。

当社グループは、2020年以降の環境変化を見据え、将来にわたる飛躍的な成長を実現すべく、本年「イオングループ中期経営計画(2017年度～2019年度)」を策定しました。「既存事業の収益構造改革の完遂」「新たな成長に向けたグループ構造改革」の2つを軸に、グループ全体の事業構造を大きく変え、高い収益性を実現する体質へと変革を図るとともに、事業を展開するそれぞれの地域・領域におけるNo.1企業の集合体を目指してまいります。

まず、イオンリテール株式会社および株式会社ダイエーをグループの成長を牽引する存在へと復活させるべく、第一に収益構造改革に取り組みます。さらに、新たな成長に向けて、「既存事業の再定義とグループ再編」「成長分野での次世代型ビジネスモデルの確立」に努めるとともに、グループの各事業分野が競争優位を発揮できる体制づくりとして、ITや物流等グループ全体の事業基盤の刷新を図ります。

これらの改革を断行し、当社は、世界水準の規模と収益性を有するグローバルリテイラーへと進化するための基盤固めを着実に推進します。

また、当社は、グループの成長と社会の発展の両立を目指す「サステナブル経営」を追求しています。なかでも、4つの重点課題である「低炭素社会の実現」「生物多様性の保全」「資源の有効活用」「社会課題への対応」について、中・長期の達成目標を設定し、事業活動を通じた環境保全や社会課題への対応に邁進しています。地域の方々とともに新設店舗の敷地内に木を植える「イオン ふるさとの森づくり」の活動は25年にわたり実施してきました。すくすくと育った木々に囲まれたショッピングセンターは、まさしく“鎮守の森”のごとく、人々が集い、語らうコミュニティの中心として、地域の発展とともに歩み続けています。

本年4月には、サステナブルな商品調達の実現に向けて、食の

安全や環境負荷に配慮した国際規格認証商品の調達を推進する、「イオン持続可能な調達方針」「持続可能な調達2020年目標」を策定しました。地域社会や国際社会の一員としての役割を果たすべく、当社は商品やサービスの提供を通じ、お客さまと一体となって地球レベルの課題に取り組んでいます。

さらに当社は、昨年制定した「コーポレートガバナンス基本方針」において、お客さまへの新たな価値創造を担う従業員を最も重要な資産であると位置づけ、従業員一人ひとりが最大限に能力を発揮できる職場環境づくりに努めています。この一環として、ダイバーシティの取り組みを一層推進し、多様な環境下にある従業員が互いの価値観を認め合い、事業成長に貢献することで、企業価値を最大化できるものと考えています。

これからも、当社は、お客さまのニーズや社会環境の変化を見据え、長期的かつ持続的な視点に立ち、絶えず革新に挑戦してまいります。そして「サステナブル経営」の追求により、生活者の幸福感を真に実現するグローバルリテイラーとして、より一層の企業価値向上を図ってまいります。

株主の皆さまには、今後も変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

### イオングループ中期経営計画(2017年度～2019年度)

#### 中期経営計画の主要改革

#### 「既存事業の収益構造改革の完遂と 新たな成長に向けたグループ構造改革」

##### 1. 既存事業の収益構造改革の完遂

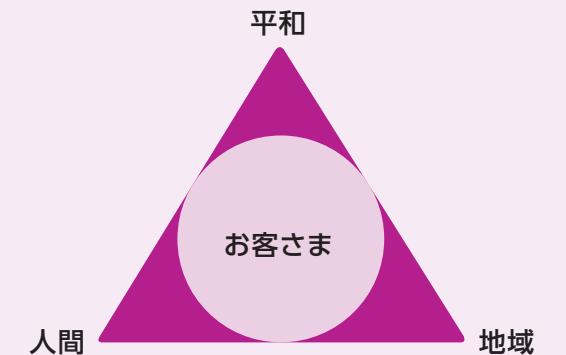
- イオンリテール株式会社と株式会社ダイエーの収益構造改革

##### 2. 新たな成長に向けたグループ構造改革

- グループ事業構造の改革
- 事業基盤の刷新

## イオンの基本理念

お客さまを原点に平和を追求し、人間を尊重し、地域社会に貢献する。



イオン(AEON)とは、ラテン語で「永遠」をあらわします。

私たちの理念の中心は「お客さま」：イオンは、お客さまへの貢献を永遠の使命とし、最もお客さま志向に徹する企業集団です。

「平和」：イオンは、事業の繁栄を通じて、平和を追求し続ける企業集団です。

「人間」：イオンは、人間を尊重し、人間的なつながりを重視する企業集団です。

「地域」：イオンは、地域の暮らしに根ざし、地域社会に貢献し続ける企業集団です。

イオンは基本理念のもと、  
絶えず革新し続ける企業集団として、  
「お客さま第一」を実践してまいります。

## 心の豊かさ、心身の健やかさの実現に向けた ヘルス&ウエルネスの取り組み

成熟社会の日本において、単なる物的な満足から、「心身ともに健康で豊かな生活をおくりたい」という心身両面での充足感を重視するようにお客さまの価値観が変化しています。

身体的な健康  
(ヘルス)



精神的な健康  
(ウエルネス)



幸福感の実現  
(ハピネス)

イオンは、地域のお客さまの日々の暮らしに寄り添い、各事業（店舗、商品、サービス）を通して「ヘルス&ウエルネス」に関わる全てのニーズに対応し、お客さま一人ひとりの幸福感（ハピネス）を実現するリーディングカンパニーを目指してまいります。

店舗を通じた  
ヘルス&ウエルネス

## 地域の健康拠点を目指して

### 健康づくりをコンセプトにしたモールづくり

イオンのモールは、イオン薬局や総合医療クリニック、リハビリ施設等専門的な医療サービスの提供に加え、フィットネスクラブ、ビューティケア、健康食品・運動用品にいたるまで、健康関連の商品・サービスを充実させることで、地域の方々の健やかな暮らしをサポートする拠点として進化し続けています。



総合医療クリニック  
「ドクターランド」



美と健康をトータルでサポートする  
「グラム ビューティーク」



健康なからだづくりのパートナー  
「イオンスポーツクラブ 3FIT」

### イベントを通じた健康増進のご提案

ヘルスケアの一環として、モール内を健康的に歩く「モールウォーキング」や、朝のラジオ体操、健康セミナーを実施しています。

イオン葛西店では、「朝活」として午前7時から囲碁や将棋、卓球等の活動のほか、負荷の少ない高齢者向けメニューのフィットネスクラブで汗を流した後、カフェで朝食がとれるといった、健康志向のライフスタイルをご提案。これらの取り組みを通じて、健康や食生活の情報交換を行える等コミュニティづくりにもつながっています。



### ITによる総合健康支援サービス

気軽に身体状態を測定・確認できるように、「ヘルスチェックコーナー」をヘルス&ビューティケア売場に導入しています。

また、イオン薬局で処方箋のお薬を受け取る際には、「スマホde調剤予約」サイトにて、処方箋情報を事前登録することで、お薬の予約ができ、お店でスピーディにお受け取りいただけます。

### Pickup!

身近な地域協働コミュニティスペース

### 「WelCafe」(ウエルカフェ)の拡大



ウエルシア薬局(株)は、地域の皆さまの「休憩の場」、「井戸端会議の場」、薬剤師・栄養士等による「情報発信の場」、および地域社会が抱える様々な課題の解決について議論する「地域協働の場」として、全国に103店舗(8月末現在)の「WelCafe」(ウエルカフェ)を展開しています。



商品を通じた  
ヘルス&ウエルネス

# より多くの笑顔が生まれるように

## より健やかに、より環境にやさしい「トップバリュ グリーンアイ」

“自然の恵みから生まれた素材を活かし、人と環境にやさしい商品を提供する”ブランドとして、3つのシリーズを展開し、商品開発を推進しています。



### トップバリュ グリーンアイオーガニック

農薬や化学肥料を使用しない有機栽培を行い、公的なオーガニック認証を受けている商品です。



▲オーガニック 緑豆もやし ▲オーガニック 無添加 米こうじ味噌



### トップバリュ グリーンアイナチュラル

栽培・飼育・漁獲の各過程において、化学合成された薬品を使用せずに生産された生鮮品、およびそれらを主原料とした加工食品です。



白身魚のふっくら蒲焼▶



◀子持ちししゃも



### トップバリュ グリーンアイフリーフロム

お客さまが購入の際に気にされる添加物や原材料、成分の使用に配慮した商品です。



▲塩だけで味付けしたポテトチップス ▲衣料用液体洗剤

## 特定原材料7品目を使用しない「トップバリュ やさしごはん」シリーズ

食物アレルギーをお持ちのご家族の「家族みんなで一緒に食事をもっと手軽に安心して楽しみたい」といったニーズにお応えし、「トップバリュ やさしごはん」シリーズを開発。卵・乳・小麦・落花生・そば・えび・かきの特定原材料の混入を防ぐために、隔離された専用区域で、専用器具を使って製造しています。2017年8月には、新たに5種類を開発し、全17種類となりました。



## 国際基準の安全・安心

イオンの直営農場を展開するイオンアグリ創造(株)は、2009年の設立以来、世界で最も普及している農業生産工程管理「GLOBALG.A.P.」の認証取得に取り組んでいます。申請中の1農場を除く全20農場で認証されており、国際基準の安全・安心な生産体制を実現しています。また、オーガニック野菜の生産に向け「有機JAS認定」の取得に取り組み、2017年1月に埼玉日高農場、9月には大分臼杵農場で取得する等、イオンの認定取得農場が着実に拡大しています。収穫した農産物は、農場近隣のグループ店舗へダイレクトに結ぶ独自の物流網により「今朝採り野菜」としてお客さまに提供しています。



「GLOBALG.A.P.」認証書

大分臼杵農場  
「有機JAS認定証明書」

## 次世代施設園芸埼玉拠点 (イオン埼玉久喜農場) から 大玉トマトを本格出荷

農林水産省の次世代施設園芸導入加速化支援事業に指定された埼玉久喜農場から大玉トマトの出荷を2017年6月より本格的に開始しました。同農場では、最先端のICTを活用し、安定的に通年生産できるトマトのハウス栽培に挑戦することで、通年での安定供給と最良な状態での収穫・出荷、味の向上を目指しています。



## イオン完結型 食品リサイクルループの構築

イオンでは2014年9月より、廃棄物の再資源化事業に取り組む大栄環境(株)と提携し、グループ店舗で発生する野菜等の食品残さを堆肥化し、イオンの直営農場で利用、収穫した農産物をまた店舗で販売するという完結型食品リサイクルループを構築しています。現在、76店舗で食品残さ回収を実施しており、今後、さらなる拡大を目指します。



## グループトピックス

### 毎日の生活に必要なトップバリュの品々を感謝の値下げ

2017年8月より、イオンのブランド「トップバリュ」のヨーグルト、冷凍食品、パックごはん、トイレトペーパー等毎日の生活に必要な品々を厳選し、お客さまに感謝の気持ちを込めて114品目を値下げしました。「お客さま第一」の基本姿勢のもと、物流の効率化や国内外のベストソースからの原料調達、一括仕入れ等さまざまな施策を通じて合理的にコスト削減を図ることで実現しました。



### 国内金融業界初！

### ロボット技術を活用したイオンカード入会受付およびAI技術を活用したコンシェルジュ業務の実証実験開始

(株)イオン銀行およびイオンクレジットサービス(株)は、2017年6月、人型ロボット「Pepper (ペッパー)」によりイオンカード入会手続きが完了する受付業務および、お客さまからのご質問に対してAI技術を搭載した卓上ロボットが対応する“デジタルコンシェルジュ”の実証実験を開始。受付業務のスピードアップと確実化を図るもので、ロボット技術による接客のみでクレジットカード入会手続きが完了するサービス、会話形式によるご質問対応は、国内金融業界初の取り組みです。



### カンボジアの首都プノンペンにイオンのスーパーマーケット1号店開業

イオンカンボジアは、2017年3月、カンボジアの首都プノンペンに「イオン マックスバリュエクスプレス ルセイケオ店」をオープン。鮮度の高い生鮮品を中心に、生活必需品や簡便食品の品揃えを強化することで、日々のお買物に便利な店舗として出店を加速していきます。

### 「女性が活躍する会社 Best100 2017」で女性活躍推進度1位を獲得

「日経WOMAN」と「日経ウーマノミクス・プロジェクト」による「女性が活躍する会社Best100 2017」で、対象4,300社中、当社が「女性活躍推進度 1位」として表彰されました。ダイバーシティ推進の専任組織設置や、グループをあげたダイバーシティ推進活動、組織横断的な女性社員向けの研修の実施等が評価されたものです。



### 「平成29年7月九州北部豪雨」に伴う災害被害への緊急支援募金の贈呈

2017年7月、被災地域へ水・弁当等の支援物資をお届けするとともに、一日も早い復旧を願い、全国のイオングループ店舗・事業所等約7,500カ所で緊急支援募金を実施。皆さまからお預かりした募金と(公財)イオンワンパーセントクラブの支援金を合わせた4,643万円を福岡県と大分県に贈呈しました。

### 「全国防災キャラバン2017」を開催

イオンは、地域を支えるライフラインとしての役割を果たせるよう様々な取り組みを行っています。2017年6月～12月まで、(公財)ボーイスカウト日本連盟とともに、地域の子もたちとその保護者を対象に防災に関する知識やスキルが身に付くイベント「全国防災キャラバン2017」を全国69カ所のグループ店舗等で開催しています。



### お客さまや地域のボランティアの皆さまとともに植樹活動を推進

#### ■「カンボジア プノンペン植樹」

2017年6月、カンボジア最大級の「プノンタマウ野生生物保護センター」の森林再生と生物多様性の保全を目指し、日本・カンボジアのボランティア800名の皆さまとともに7,000本を植樹。同国で実施した植樹本数は31,000本を超えました。



#### ■「ミャンマー ヤンゴン植樹」

2017年7月、ヤンゴン市郊外で生活用水の水源であるローガー湖を持続的に利用できるよう、日本・ミャンマーのボランティア1,200名の皆さまとともに、13,000本を植樹。同国で実施した植樹本数は47,000本となりました。



#### ■「北海道 厚真町植樹」

農業に欠かせない水資源の安定確保に向けて、森林が本来有する機能の回復を目指し、2017年7月、ボランティア600名の皆さまとともに、5,600本を植樹。3年間継続して実施した植樹の累計本数は17,000本となりました。



※ 上記の植樹活動はいずれも(公財)イオン環境財団が実施した植樹です。

# 決算レビュー

## 連結要約貸借対照表 (単位: 億円)

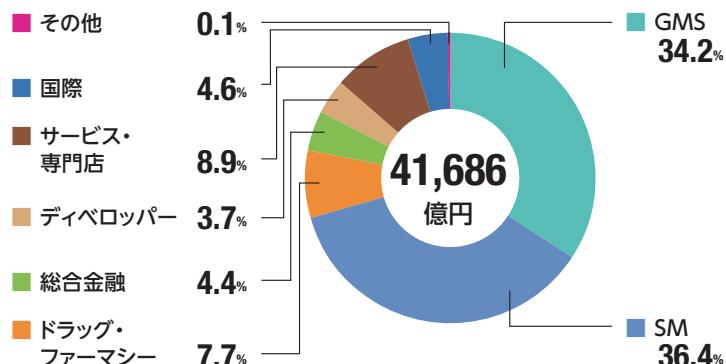
資産の部 (主要項目のみ)	前期末 2017.2.28 現在	当中間期末 2017.8.31 現在	負債・純資産の部 (主要項目のみ)	前期末 2017.2.28 現在	当中間期末 2017.8.31 現在
流動資産合計	49,197	52,081	負債合計	68,884	72,847
現金及び預金	8,427	7,846	流動負債	49,184	52,062
受取手形及び 売掛金	11,874	13,567	固定負債	19,699	20,784
たな卸資産	5,862	5,698	純資産合計	18,624	18,495
営業貸付金・ 銀行業に おける貸出金	17,694	19,428	株主資本	10,702	10,565
その他	5,339	5,540	その他の 包括利益累計額	611	690
固定資産合計	38,310	39,262	新株予約権	18	20
有形固定資産	26,597	27,391	非支配株主持分	7,292	7,218
無形固定資産	2,948	2,900			
投資その他の 資産	8,764	8,969			
<b>資産合計</b>	<b>87,508</b>	<b>91,343</b>	<b>負債・純資産合計</b>	<b>87,508</b>	<b>91,343</b>

※連結要約貸借対照表の中間期末は、第2四半期連結会計期間末を表します。連結要約損益計算書の中間期は、第2四半期連結累計期間を表します。

## 事業のセグメント情報 (2017.3.1~2017.8.31) (単位: 億円)

	営業収益	営業利益
GMS事業	15,251	△104
SM事業	16,228	108
ドラッグ・ファーマシー事業	3,411	138
総合金融事業	1,979	329
ディベロッパー事業	1,649	235
サービス・専門店事業	3,977	152
国際事業	2,039	△12
その他事業	53	2
調整額	△2,905	0
連結損益計算書計上額	41,686	850

## 事業別営業収益 構成比率



※グラフは連結調整前の単純合算数値をベースとして作成しています。

## 連結要約損益計算書 (単位: 億円)

科目	前中間期 2016.3.1 ~ 2016.8.31	当中間期 2017.3.1 ~ 2017.8.31
営業収益	41,118	41,686
営業利益	723	850
経常利益	731	855
親会社株主に帰属 する中間純利益又は 純損失 (△)	△53	42

## 連結要約キャッシュ・フロー計算書 (単位: 億円)

科目	前中間期 2016.3.1 ~ 2016.8.31	当中間期 2017.3.1 ~ 2017.8.31
営業活動による キャッシュ・フロー	1,075	1,814
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,289	△2,669
財務活動による キャッシュ・フロー	534	272
現金及び現金同等物 の中間期末残高	7,167	7,414

## セグメント別の概況

### GMS (総合スーパー) 事業

イオンリテール(株)は、4店舗を新規出店するとともに39店舗の活性化を実施。地域の異なるニーズに対応し、累計48店舗を「イオンスタイル」化する等業態転換や品揃え・サービスを強化するとともに、節約志向にお応えした価格の実現に継続して取り組みました。さらに、販促費用の効率化等の徹底した経費削減が奏功し、営業損益が大幅に改善しました。イオン北海道(株)は、季節を味わう旬の食材や全国の厳選した上質な商品提案等、品揃えを強化。さらに各自治体や観光協会とのタイアップによるインバウンド対応施策の強化に加え、経費削減が奏功し、増収増益となりました。

### SM (スーパーマーケット) 事業

(株)ダイエーは、食品加工センターの活用等による生産性の改善や経費削減、「えっ! 安い値!」の品目数を拡大する「EDSLP (エブリデー・セიმ・ロー・プライス)」を推進し、営業損益改善となりました。マックスバリュ東海(株)は、店舗のパートタイマー社員が直接商品の選定・買付けを行い新たに約1,100品目を導入する等品揃えを強化しました。さらに、3店舗の新規出店、11店舗の活性化を実施しました。

### ドラッグ・ファーマシー事業

ウエルシアホールディングス(株)および同社連結子会社は、新規出店と既存店舗の活性化を積極的に推進し、調剤併設店舗1,070店舗、24時間営業店舗111店舗へとそれぞれ拡大しました。また、健康をキーワードにした商品開発や、即食需要に対応した弁当・総菜の販売等品揃えの強化に取り組み、増収増益となりました。

### 総合金融事業

(株)イオン銀行は、新たな顧客層の開拓に向けて、新規提携カードの発行を開始、協業先と連携した商品開発、プロモーション活動を推進。また、新たに「イオン銀行 iDeCo」の取り扱い開始、NISA口座での投資信託買付手数料の実質無料化等、資産形成サービスの拡充に努めました。海外においては、香港では、ゴールドカード会員向けにイオン店舗での常時ポイント2倍特典の提供を開始。タイでは、大手小売業との提携カード即時発行の開始等、会員の増加、取扱高の拡大に取り組みました。また、フィリピンにおいては、IoTデバイスを活用した三輪タクシー向けオートローン事業を開始しました。

### ディベロッパー事業

イオンモール(株)は、国内では、3SC (ショッピングセンター) の新規開設に加え、既存11SCのリニューアルを推進した結果、来店客数・専門店売上とも前年同期を上回り、好調に推移。海外では、19SC中12SCが黒字化し、継続して損益改善トレンドとなりました。都市型ファッションビルを展開する(株)OPAは、4年ぶりの新店の開設に加え、5カ所のリニューアルを実施する等業容の拡大に取り組みました。

詳しい決算概況については、下記URLまたは  
右記QRコードより当社サイトをご覧ください。  
<http://www.aeon.info/ir/sp/>



### サービス・専門店事業

イオンディライト(株)は、ファシリティ (店舗等施設の総合管理) に関する顧客に最適なサービスを提案するIFM (インテグレートド・ファシリティマネジメント) 営業を国内外で強化。さらに、次世代型施設管理システムの開発・導入等、テクノロジーを活用した事業構造改革を推進しました。(株)イオンファンタジーは、国内に5店舗を出店、24店舗の活性化を実施。さらに、利便性・サービスを向上させた新会員制度や一定時間定額の遊び放題サービスを導入しました。海外では、中国16店舗、アセアン12店舗を新規出店。マレーシアでは、既存店売上が好調に推移、インドネシアでは、営業利益が黒字化する等、国内外で順調に成長した結果、営業収益、営業利益、経常利益ともに過去最高となりました。日本最大のスクリーン数の映画館を展開するイオンエンターテイメント(株)は、新たに4店舗を出店する等業容の拡大を図り、営業収益、営業利益ともに過去最高となりました。

### 国際事業

イオンマレーシアは、「レバラン」(イスラム教における断食明け大祭) 需要への対応が奏功するとともに、商品・売場改革等に取り組みました。イオンカンボジアは、社会行事への対応や衣料の品揃え拡充に加え、新たにSM事業を展開する等業容を拡大しました。イオンベトナムでは、晴れの日需要の取り込みや、顧客カード会員数の増加により購買頻度や購入額が伸長しました。中国においては、前年度に不振店舗を閉鎖した青島イオンは、事業構造改革が奏功し、大幅な増益となり黒字転換を達成。北京イオンやイオン華東においても継続的な収益性改善の取り組みが奏功し、損益が着実に改善しました。



## 会社情報/株式情報

### 会社概要 (2017年8月31日現在)

社名	イオン株式会社 (AEON CO.,LTD.)
設立	1926年9月
事業内容	小売、ディベロッパー、金融、サービスおよびそれに関連する事業を営む会社の株式または持分を保有することによる当該会社の事業活動の管理
資本金	2,200億7百万円
本社	〒261-8515 千葉県美浜区中瀬一丁目5番地1

### 取締役 (2017年8月31日現在)

取締役	横尾 博 (取締役会議長)
取締役	岡田 元也 (指名委員 報酬委員)
取締役	森 美樹
取締役	山下 昭典
社外取締役	佐藤 謙 (監査委員会議長 報酬委員)
社外取締役	内永 ゆか子 (指名委員会議長 監査委員)
社外取締役	長島 徹 (報酬委員会議長 監査委員)
社外取締役	塚本 隆史 (指名委員 報酬委員)
社外取締役	大野 恒太郎 (監査委員 指名委員)

### 執行役 (2017年8月31日現在)

代表執行役社長	岡田 元也	グループCEO
代表執行役副社長	森 美樹	グループCOO
執行役副社長	山下 昭典	財務・経営管理担当
執行役副社長	若生 信弥	経営企画担当
執行役	岡崎 双一	GMS事業担当
執行役	柴田 英二	商品担当
執行役	吉田 昭夫	ディベロッパー事業担当
執行役	小佐野 豪績	IT担当
執行役	藤田 元宏	SM事業担当
執行役	水野 秀晴	ドラッグ・ファーマシー事業担当
執行役	中山 一平	サービス・専門店事業担当
執行役	鈴木 正規	総合金融事業担当
執行役	羽生 有希	中国事業担当
執行役	三宅 香	環境・社会貢献・PR・IR担当
執行役	高橋 丈晴	人事・管理担当兼リスクマネジメント担当

### 株式の状況 (2017年8月31日現在)

発行可能株式総数	2,400,000,000株
発行済株式総数(自己株式を含む)*	871,924,572株
単元株式数	100株
総株主数	738,411名

\*自己株式は、30,263,729株です。

### 大株主(上位10名) (2017年8月31日現在)

株主名	持株数	持株比率
三菱商事株式会社	40,422千株	4.80%
株式会社みずほ銀行	33,292千株	3.96%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	28,206千株	3.35%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	25,797千株	3.07%
公益財団法人イオン環境財団	21,482千株	2.55%
公益財団法人岡田文化財団	21,100千株	2.51%
農林中央金庫	18,133千株	2.15%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口5)	15,006千株	1.78%
イオン社員持株会	13,510千株	1.61%
イオン共栄会(野村證券口)	11,999千株	1.43%

注：持株比率は、自己株式(30,263,729株)を除外して計算しています。

### 株主メモ

決算期	2月末日
基準日	期末配当、定時株主総会 2月末日 中間配当 8月末日 (その他必要がある場合には、あらかじめ公告いたします)

定時株主総会	5月末日までに開催
公告方法	電子公告 ただし電子公告による公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 (アドレス) <a href="http://www.aeon.info/ir/">http://www.aeon.info/ir/</a>

上場証券取引所	東京証券取引所
株主名簿管理人	〒100-8233 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社

郵便物送付先(電話照会先)	〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-782-031(フリーダイヤル)
---------------	---------------------------------------------------------------------------------

取次事務は、三井住友信託銀行株式会社の本店および全国各支店で行っています。  
**※住所変更、単元未満株式の買取・買増等のお申し出先について**  
 株主さまの口座のある証券会社にお申し出ください。なお、証券会社等に口座がないため特別口座にて管理されている株主さまは、特別口座の口座管理機関である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。  
**※未払配当金の支払いについて**  
 株主名簿管理人である三井住友信託銀行株式会社にお申し出ください。

## 2017年度 中間期の配当について

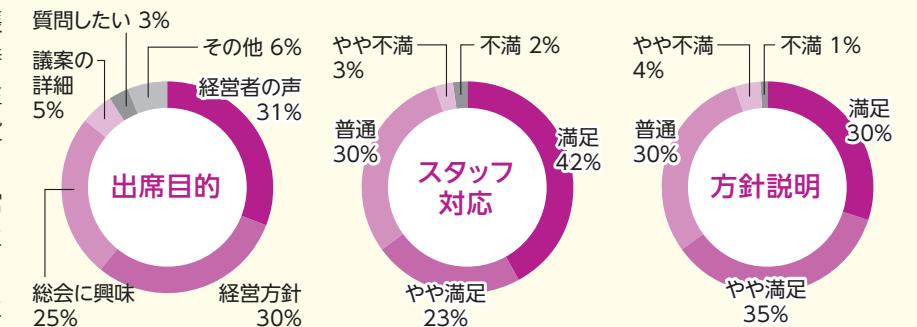
2017年10月4日の取締役会決議により、1株当たり普通配当15円とさせていただきます。期末配当金は、15円を予定しており、年間配当は、30円となる見通しです。  
 なお、中間期の配当金のお支払開始日は、2017年10月25日とさせていただきます。

年間配当金の推移(1株当たり)



## 第92期 定時株主総会 ご出席株主さまアンケート結果のご報告

2017年5月24日に千葉県の幕張メッセで開催した第92期 定時株主総会では、1,573名の株主さまにご出席いただき、取締役9名を選任いただきました。  
 当日は、当社のサステナブル経営に関する場内展示や、総会運営に関するアンケートを実施しました。ご協力に感謝いたしますとともにその結果の一部をご紹介します。



株主の皆さまから頂戴したご意見を活かし、当社の取り組みをより一層ご理解いただける株主総会の運営を目指してまいります。

イオンのブランド トップバリュ

# 「よい品を、もっとお求めやすく」

すべてはお客さまにいちばん喜んでいただけるブランドであり続けるために。  
トップバリュは人気の商品を、品質はそのままに、お求めやすい価格で提供していきます。

トップバリュは、イオングループ全体で販売することでコストを抑え、商品価格に反映します。

トップバリュは、物流システムを効率化することによる間接コストの削減に努めます。

トップバリュは、計画生産によって生産効率を高め、高品質・低価格を目指します。

トップバリュは、原料調達地を国内外で徹底比較し、最適な原材料を使用します。

これまで、これからも。

トップバリュはイオンだからこそできる方法で、

「よい品を、もっとお求めやすく」を実現してまいります。



木を植えています

私たちはイオンです



この報告書は、FSC®認証紙と、  
環境に優しい植物油インキを  
使用して印刷しています。